

署名のご協力をお願い致します

約500年前にポルトガル人がブラジルに侵入する前は、この大地には先住民（インディオ）しか存在していませんでした。当時はその数約1,000万人ともいわれていますが、現在は約38万人に減少してしまいました。ブラジルの繁栄はインディオの血と涙を礎に成り立っています。インディオの人たちは、自然に対し畏敬の念を抱き、森の恵みに感謝して生きていますが、今また彼らと森が危機的な状況にさらされています

今回のペロモンチ・ダムがもし建設されたとしたら、人類が絶滅の一途を辿ることを暗示します。地球の酸素供給源であるアマゾン森を、カーボンオフセット、開発可能な対象としか考えず、金換算で破壊することは間違っています。

このダム建設は住民であるインディオの人に一切の説明、相談も無く既にブラジル議会で可決され、10月26日の環境省の見解と回答を待つだけになっています。どのような結果になっても、ダム建設現場周辺のカヤボ族は、「ダム建設反対」の抗議行動を起こす決断をし、カヤボ族の長老ラオーニが各部族に呼びかけ、ムーブメントが始まりました。

より多くの人たちのダム建設撤回の署名は、大きな誤った判断を食い止めることが出来るかも知れません。この問題はブラジルだけでなく、この星の生きとし生ける全ての命に関わる大きな問題です。当団体は1989年、このダム建設撤回のメッセージを始めに、ワールドキャンペーンツアーを行ったイギリスの歌手スティング来日を機に設立しましたが、20年後の現在、この計画が再浮上し、また同じ過ちを繰り返そうとしています。

今私たちが早急のできる事として、ここに沢山の方たちの署名によるご協力をお願い致す次第でございます。同時にアマゾン森の神々、精霊と共に命をかけて抗議行動を行っている「森の番人」であるインディオの人達に、熱きエネルギーを送って頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

(熱帯森林保護団体 代表 南研子)

■ペロモンチ水力発電ダムについて：

このダムの建設予定地はアマゾン河支流、シンゲー河のシンゲー先住民保護区に隣接しています。発電した電力エネルギーの用途について、政府はまだ明言しておりませんが、ダムの所在する「パラ州内で利用する」とだけ言っています。電力が慢性的に不足している大都市部への供給は予定していないようです。計画に反対するブラジルの研究者の中には、流域一帯の鉱山開発を政府は見ずえているのではないかと懸念する人もいます。シンゲー河において、これだけの規模のダムを建設すれば前代未聞の環境破壊が起こることは必須です。

■ペロモンチ水力発電ダムの比較データ：

最大出力

1万1233メガワット = 1123万3000キロワット
= 日本の標準的な原子力発電所の約10倍分

ダム湖の面積(400平方km)

- ・ハツ場ダムの132個分
- ・大阪市の1.8倍
- ・横浜市とほぼ同じ大きさ

※せき止めた水は、ダム湖取水口から100km以上下流に設置され、発電施設まで、巨大水路を通して導水される。そのため、干上がってしまうおそれのあるシンゲー河の部分の長さとは、淀川の1.5倍の長さ・多摩川とほぼ同じ長さ、である。

(参考データ)

ハツ場ダム湖面積：3.04km²
横浜市面積：437.38km²
大阪市面積：222.30km²
淀川延長：75.1km
多摩川延長：138km